

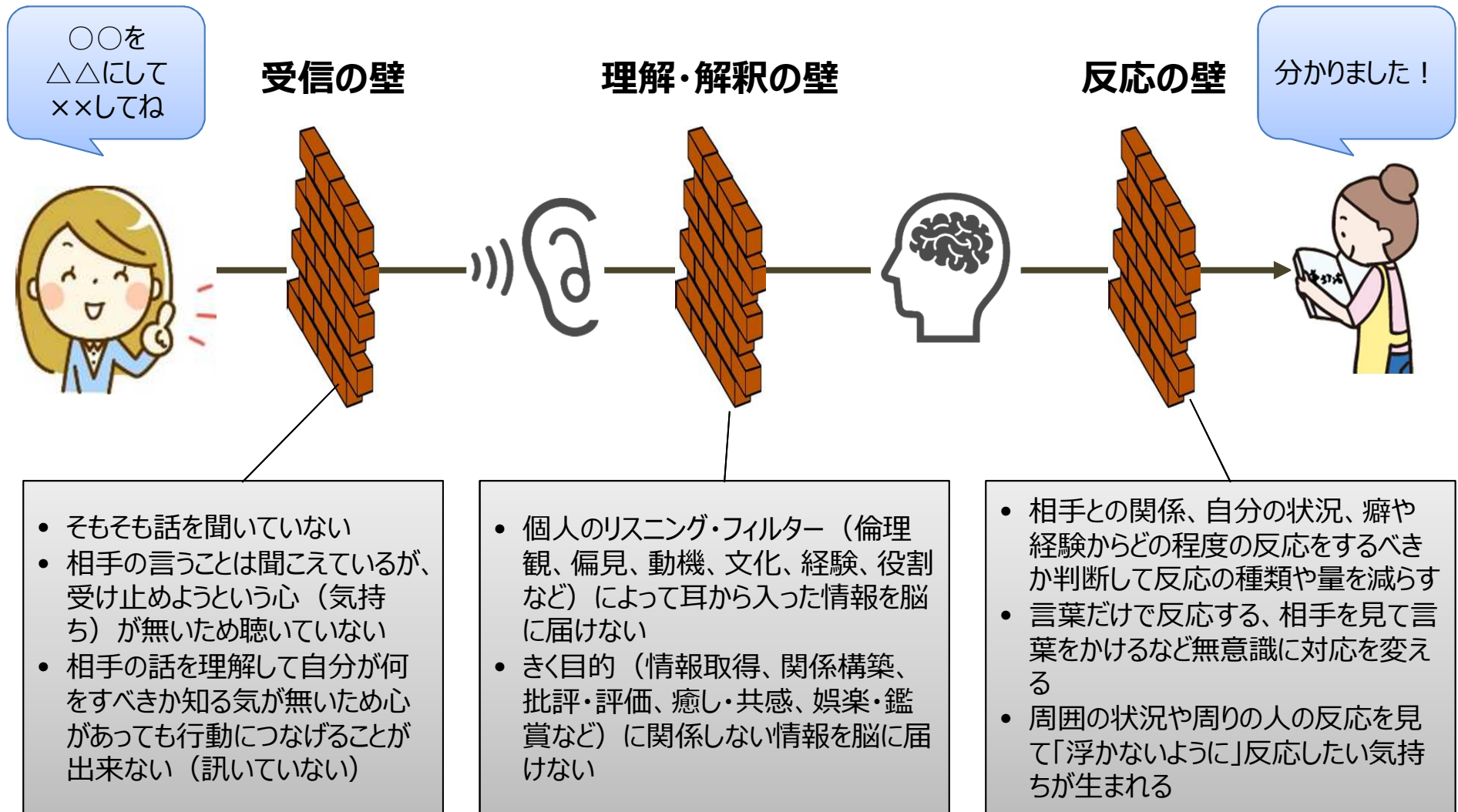
# きくことと伝えること(1/3)

- 様々な定義があるが、「きくこととは、音声言語、非言語情報を受信し、それに意味づけをし、反応するプロセス」  
(International Listening Association 1995)
- 労力の大きい「訊く」を続けることは大人であっても困難なため、子どもに対しては使わないようにすべき
- いつでも「聞く」ことが出来ていて、必要に応じて「聴く」ことと「訊く」ことが出来るようになるのが望ましい

	定義	使うもの	どんな時に使うか？	労力
聞く hear	音の刺激を受けること、聞こえてくる音をそのまま耳で感じ取ること	耳	周囲の子ども達が何をしているのか、自分の周りで何が起きているのかを「 <u>知るとはなしに知りたいとき</u> 」	小
聴く listen	耳、目、心を総動員して相手が発信している情報を理解しようとする	耳・目・心	対話の相手、特に1対1での対話の相手に対して「 <u>私は聞いていますよ</u> 」と <u>アピールしたり、相手の話から何かを受け止めよう</u> とするとき	中
訊く ask inquire	「なぜそう言えるのか」「本当に言いたいことは何なのか」などを自己に問いかけながら「聴く」こと	耳・目・心 + 頭・内言	相手の話・説明から <u>自分のためになる情報を取り入れたい</u> とき 自分の考えと相手の考えとの間で <u>齟齬があると感じ、解決する必要がある</u> と感じたとき	大

## きくことと伝えること(2/3)

- 何かを「きいた」後、何らかの反応をする間に情報のフィルターとなる3種類の壁がある
- 現在は育ってきた文化やこれまでの経験、趣味嗜好が多様になってきているため、同じ情報のインプットがあっても「きく」人によって解釈や理解が異なり、反応も異なってくることに注意しておく必要がある



## きくことと伝えること(3/3)

---

- 相手に「きいてほしい」のであれば、伝え方に注意する必要がある
- 伝わらないのは「きく」相手に問題があることもあるが、伝え方に問題がある場合もあるため、「阿吽の呼吸」に近づくまでは、相手の反応だけで安心しないほうが安全ともいえる

### 伝える側の願い

聞いてほしい  
hear

聴いてほしい  
listen

訊いてほしい  
ask / inquire

### 注意すること

大きな声で

声だけでなく見た目や感情に訴えかけるように  
伝える相手のことを考えて、使う言葉を選ぶ

結論を明確にする  
説明する順番は結論→理由→具体例→結論とする  
難しい話は例示を使ったり細かく分割するなど工夫する  
相手の立場に立って、相手が理解しやすい言葉を使う  
声のトーンや話し方、視覚情報を活用する

その他、相手との間に信頼関係を築くために、まずは相手の話を聞くことから始める、相手に話す量と相手の話を聞く量は3:7に抑える、相槌の打ち方、相手の状況が不安定であれば安定することを優先する、返報性の原理・ミラーリング・単純接触効果などの臨床心理学の活用、伝えたい事の絞り込みなどがある